

戦艦武蔵フィリピン洋上慰霊祭 事業報告書

日 時: 平成 27年 4月24日(金)～28日(火)

場 所: フィリピン シブヤン海

内 容: 戦艦武蔵の沈没している地点で、軍艦武蔵会(武蔵元乗組員、遺族)とともに洋上慰霊祭を行い、戦艦武蔵乗組員と戦艦武蔵の御霊を慰霊する。

趣 旨: 戦没70年を機に、戦艦武蔵の艦内神社である武蔵神社を分祀している武蔵一宮「氷川神社」に、乗組員の遺徳を偲びつつ、当時、世界最高水準で世界最大の軍艦であった戦艦武蔵の技術顕彰と、世界で最も、被害に遭いながらも不沈艦として頑なに沈ませなかった乗組員たちの「武蔵魂」を顕彰すべく、「戦艦武蔵顕彰碑」を建立するため「戦艦武蔵顕彰会」は設立いたしました。そんな中、ポール アラン氏により戦艦武蔵発見の報は、我々を驚愕させるものでした。しかし、これも天啓であるとすれば、早急に洋上慰霊を行わなければならないのではないかと使命感の中で、元乗組員と遺族の会である「軍艦武蔵会」とともに、沈没地点まで行き、英霊の御魂を安らかに鎮める事を今慰霊祭の目的といたします。

出席者 47名(乗員3名、遺族9名、神主1名、戦艦武蔵顕彰会27名、メディア7名(NHK2名、読売1名、共同3名、マニラ新聞1名)

タイムスケジュール

時 間	内 容	備 考
4月23日	氷川神社 安全祈願	
4月24日	成田空港出発 マニラへ 到着後、夕食会	2班:午前、午後
4月25日	午後、カリボ空港へ。到着後、仮眠	パナイ島
23:00	ホテル出発。	
4月26日1:00	カテイクラン港出港	シブヤン海を北上
8:00	洋上慰霊祭	
13:00	カテイクラン港(慰霊祭)	
夕 方	カリボ空港 - マニラ空港へ	
4月27日	コレヒードル島視察	マバラカット視察も有り
4月28日	成田空港到着。解散	

〔報告〕

戦艦武蔵発見により遺族と元乗組員からなる軍艦武蔵会の早急の洋上慰霊祭実現への強い要望に対し、戦艦武蔵顕彰会が、共同主催で開催致しました。急な事もあり小型船のチャーターしかできず、当日は当に天気晴朗なれど波高しの状態で30分もたつともな顔色の人はいませんでした。向かい風と波に阻まれ遅々として進まない船に撤退の意見が高まる中、最後まで可能性を探し続けていたのは牧原議員でした。しかしながら、これ以上の前進は危険であるとの判断で、現場海域の手前ではありますが、洋上慰霊祭を行いました。まず、乗組員による玉石投擲を行いました。71年前この地で別れた戦友の名前を呼び続ける姿は感動的な場面でした。その後、国歌斉唱の後、安倍首相からの御言葉を牧原議員が読み上げました。その場にいた全ての人が、一文一文を噛み締めながら聴いていました。いつの間にか、波はおさまり、空は晴れあがっている中、戦艦武蔵の旭日旗が大きくはためいていました。その後の、藤田氏のあいさつもまた、素晴らしいものでした。70年に渡る平和は、何よりも尊いものであり、英霊の皆様が弁慶のごとく日本を守って頂いたこと、海上自衛隊をはじめとして、現在の我々もそれに恥じないように努力していくという力強い言葉でした。元ラッパ手の種村氏の「国の鎮め」も九十歳とは思えない程、強く、シブヤン海に響き渡っていました。堀田氏が巡検ラッパを厳かに鳴らしていた時、元乗組員である早川氏が泣き崩れた時、我々の総てが感極まって涙を流していました。最後に、体調を崩していた遠藤権禰宜も力を振り絞り、龍笛を独奏していただきました。船の上にいる総ての人が英霊を鎮めるために、まさに全身全霊で執り行った洋上慰霊祭でした。